

今年は125名の新社会人が入職しました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



本年度、健育会では125名の新社会人の方を迎えました。数ある中から健育会グループを選んでくださり、4月から新たな道を進み始めたみなさんです。初めて社会に出た彼らに向けて、社会人として心がけること、そして私が約束することを伝えました。



みなさん、健育会グループを選んでいただき本当にありがとうございます。心から歓迎いたします。

健育会は今年で創立68周年を迎える医療・介護を提供するグループです。9つの病院と2つのクリニック、12の介護施設と53の介護事業所を総勢約4000名（非常勤含む）の職員で運営しています。

8年前、当時の天皇皇后両陛下が行幸啓として、当グループの「ケアポート板橋」をご訪問されました。民間の施設を公式訪問されるのは極めて異例でした。これは、実績に加え諸外国からの交換留学生の受入れが評価された結果で、非常に名誉なことです。

このように名誉あるグループであることを知っていただいた上で、みなさんはその一員として業務に励んでください。

今日は「社会人として一般的に身につけるべきこと」をお話します。そして半年後、みなさんが日常業務に慣れたころに改めて、健育会グループが何を考え、どこに向かおうとしているのかをお話する予定です。



皆さんが守るべき「社会人として大切なこと」は2つ。1つ目は「責任感」です。責任が取れない行動は、社会に迷惑をかけることとなります。特に医療・介護は人の命に携わるサービス業です。考えのない対応は患者さんの命を危険にさらすことにつながりかねません。

とはいえ、みなさんは新人です。まだできないことも多く出てくるでしょう。ここで気をつけることは「できないことをうやむやにしないこと」。自分でできないことは「できない」と自分の中でしっかりと認識し、その上で上司に相談することこそが新人として取るべき責任です。



患者さんや利用者、ご家族からすれば、新人もベテランも区別できません。みなさんをベテランの職員だと思って接してきます。当然、無理なことや知らないことを要求されることもあるでしょうが、その際には決して「できません」「わかりません」とはお答えしないでください。「少しお待ちください、上司に聞いてきます」とお伝えしてすぐに上司に判断を仰ぐことが、みなさんの取るべき言動です。お待たせしてしまいますが、責任を取る上では仕方のないこと。適当な対応をして大きな事故につながるこのほうが問題です。

判断も仰がずに「できない」で対応するのは責任放棄ともいえます。わずかひとりで病院に対するイメージは非常に悪くなることもあるのです。サービス業において「100マイナス1」は「ゼロ」。「99」にはなりません。ひとりの無責任な行動が、患者さん・利用者の命に危険を及ぼすこと、さらには病院や施設の評判をゼロにするリスクがあることを肝に銘じてほしいと思います。



2つ目は、組織の規則をよく学んで守る「規律正しく行動すること」。プライベートな時間は好きなように過ごしてください。しかし、ひとたび、病院・施設に足を踏み入れた瞬間、みなさんは医療・介護に携わる人間になります。

規律を守って組織を乱さず、クライアントから「立派な職員」とみなされるよう振る舞うことが重要です。みなさんの振る舞いは常に誰かが見えています。規律に伴わない行動は信頼を失いかねません。不本意な行動や言動が68年にわたって築き上げてきたブランドをゼロにしてしまうということを心に留めておいてください。

社会人として大切なことはこの2つです。1日も早く、医療・介護に携わる人間として独り立ちし、健育会グループの一員として組織の原動力になることを期待しています。



私からもみなさんに3つのことを約束します。

1つは「仕事のやりがいを持てるような職場環境」を整備すること。みなさんの努力は正当に評価します。頑張りに応じて適切な待遇が受けられる評価制度を設けていますので、やりがいを持って仕事に励んでください。

2つ目は「みなさんが夢を持てるような職場環境」の整備。医療・介護の仕事は非常に忙しく疲れるものです。しかし、やりがいがあればその疲れは心地よいものとなり、人生の夢を考える気持ちのゆとりができるはず。たとえ日々忙しくても、将来に向けた夢はちゃんと思い描ける、そんな職場環境を約束します。



最後に、医療・介護に携わるものとしての「使命感が育つ職場環境」です。人のためになりたいと志を持って入職された方はもちろん、そうでない方も健育会に入れば仕事を通じて使命感が育つような環境を用意します。

そのために健育会では「勉強する」環境と「褒められる」場を設けています。研究発表など多くの機会があり、毎日忙しい中で「なぜ業務と関係ない勉強をしないといけないのか」と思われるかもしれません。しかし、学びは必ず原動力となり、成長だけでなく仕事に対する使命感にもつながります。また、患者さんや利用者、上司から褒められることも使命感を育むには大切な要素です。「理事長賞」など評価制度を生かして正しい使命感を身につけてください。

よりよい環境整備に私も力を尽くしますので、みなさんも勉強しながら一人前の医療・介護職になってほしいと思います。6ヶ月後にまたお会いしましょう。